

<総括>

出題数	現代文 2題・古文 1題	試験時間	90分
-----	--------------	------	-----

- ・体験を言葉で語ることと小説のありようとの関わりについて述べた評論からの出題。
- ・本文の分量は昨年度よりやや増加している。すべて記述説明であり、設問数も四問と変化はみられない。ただし、解答欄の行数の合計は昨年度(14行)に比べ13行と1行減少した。
- ・本文の分量の増加、記述分量の微減はみられるが、総合的にみて、全体の難易度は、ほぼ例年並。
- ・昨年度同様、本文は文理共通だが、理系では文系で出題された問五がなく、全四問の出題となっている。

<本文分析>

大問番号	□
出典 (作者)	小川 国夫 「体験と告白」
頻出度合 ・的中等	なし
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・変化なし・ やや増加 ・増加)
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・ 変化なし ・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
□	評論	問一	記述式	標準	傍線部の内容を説明する問題。(解答欄3行) 「それと今一つ」という表現から、隠すべき二つの要素を明確にして説明する。
		問二	記述式	標準	傍線部の内容を説明する問題。(解答欄3行) 傍線部直前の内容から、「つらさ」を知ることで「弱点」が識別されることを説明に組み込む。
		問三	記述式	標準	傍線部の内容を説明する問題。(解答欄4行) 傍線部直後のアウグスティヌスの考え方を参考にして、傍線部の指摘を説明する工夫が求められる。
		問四	記述式	標準	傍線部に関わる理由説明の問題。(解答欄3行) 「信念」の内容と、次段落に述べられる「決定論」の内容を踏まえた説明が必要になる。

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・評論であれ随筆であれ、文章の主題や筆者の主張を全体からの確に把握するとともに、個々の文脈を丁寧にたどって正確に押さえる読解力が不可欠である。
- ・設問の意図を踏まえ、理解した内容を簡潔かつ的確に表現してみる訓練が欠かせない。
- ・今年度も、漢字問題は出題されなかったが、読解力養成の前提として、その知識の蓄積を怠らないこと。

<総括>

出題数	現代文 2題・古文 1題	試験時間	90分
-----	--------------	------	-----

- ・ 日本的な美だけではなく文化や人間全体にとっても重要な意味をもつ「闇の領域」が、近代化にともなって消失していく事態について考察をめぐらせた文章。
- ・ 問題文は比較的読みやすいが、解答に必要な内容を過不足なく読み取り、それらを解答欄に収まるようにまとめるのは容易ではない。

<本文分析>

大問番号	□
出典 (作者)	小松 和彦 「妖怪学新考 妖怪からみる日本人の心」
頻出度合 ・ 的中等	なし
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・変化なし・ やや増加 ・増加)
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・ 変化なし ・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
□	評論	問一	記述式	標準	傍線部の内容説明問題。(解答欄3行) ※第三段落(各引用は前の段落に含むものとする)までの論旨を踏まえ、「闇の領域」の意義を説明する。 傍線部の理由説明問題。(解答欄3行) ※近代化にともなって消失した「闇の領域」と「妖怪」との関連を本文に即して説明する。 傍線部の理由説明問題。(解答欄3行) ※大正期の日本人の心性と童謡との関わりを第五段落・第六段落の内容を踏まえて説明する。
		問二	記述式	標準	
		問三	記述式	標準	

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・ □は理系の単独の出題であるが、理系の受験生にとって問題の水準は決して平易とはいえない。共通問題□のレベルにも対応できるように学習しておきたい。
- ・ 文章のジャンルを問わず、単に字面を追うのではなく、その主題を本文全体からの確に把握するとともに文脈を精確に理解する読解力と、その内容を適切に説明する記述力が不可欠である。

<総括>

出題数	現代文 2題・古文 1題	試験時間	90分
-----	--------------	------	-----

- ・ 昨年は、平安時代の物語であったが、今年は一昨年と同様、近世の随筆からの出題であった。
- ・ 昨年と同様、解答数は三つであった。
- ・ 設問構成は昨年と違って現代語訳一つと、説明問題二つであった。
- ・ 昨年は和歌の一部の現代語訳の設問があったが、今年是和歌の一部の心情説明の設問があった。

<本文分析>

大問番号	三
出典 (作者)	『北辺随筆』 (江戸時代の国学者富士谷御杖)
頻出度合 ・ 的中等	稀
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・変化なし・ やや増加 ・増加) 約419字 (前年約300字)
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・ 変化なし ・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
三	随筆	問一	記述式	標準	条件付きの現代語訳問題。「『この詞』の指す内容を明らかにしつつ」という条件があった。「いかで」「事もかかれざりし」の訳出と、「この詞」の具体内容を書き込むことがポイント。「事もかかれざり」は、「事欠かない」に気がつくかどうか、受験生には難しかったと思われる。「れ」の意味は判定しにくい。 (解答欄2行)
		問二	記述式	標準	条件付きの説明問題。和歌の一部について、「筆者の解釈にしたがって」という条件付きで説明する。本文の該当箇所を丹念に現代語訳してまとめるところがポイント。 (解答欄3行)
		問三	記述式	標準	説明問題。傍線部の内容説明問題で、傍線部の「思ひよらぬ詞」「その用をなしたる事」「たがひに」などを本文全体を踏まえて説明するところがポイント。 (解答欄4行)

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・ 昨年は平安時代の文章であったが、今年は近世の文章だったので、いろいろな時代・ジャンルの文章に慣れる必要がある。
- ・ 主語、目的語、指示内容などを考えながら、文章全体の内容を正確に理解する練習を平素からおこなっておくこと。それによって説明問題にも対応できるのである。
- ・ 本文全体を現代語訳できるかどうか京大理系古文の根本である。現代語訳をする練習がいちばんに望まれる。
- ・ 今年も和歌にかかわる問題が出題されたので、修辞、現代語訳、趣旨の説明など、和歌の対策は必ずしておきたい。